

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年3月16日提出

所 属	職 名	氏 名
文	教授	廣田 収
研 究 題 目	日本物語文学史の理論的研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>この数年間継続して、口承の text である昔話から抽出した話型のモデルを援用することによって、古代から中世に至る物語や説話の枠組み type, mode, style などを原理的に解明してきた。また、個別の物語や説話を象徴する鍵語 key word を、歴史的な文脈 context の中で捉えることを試みてきた。さらに、物語や説話を基本的に設定する時・所・人にかかわる固有名詞を、歴史性を帯びた表現と捉えることを試みた。そして、これらを重層的に構築するところに物語や説話の表現 expression を認めようとしてきた。</p> <p>さらにこの仮説に基き、話型を基層とし、歴史的な鍵語や、歴史性を帯びる固有名詞を表層をなすものと捉える。すなわち、話型の上に固有名詞を重ねる、これらの総体を改めて物語や説話を構成する厚みのある表現と捉える理論を構築した。</p> <p>そして、この仮説が、文字文献と音声言語による伝承に共有されるものとして、本年度は『宇治拾遺物語』の中の昔話（新典社）及び『講義 日本物語文学小史』（金壽堂出版）において検証を試みた。</p> <p>このような理論的仮説は、従来のような、作品を羅列する文学史研究や、伝播論的研究、ジャンル論やモチーフ研究などの個別的研究の限界を克服できるものと考えられるものである。</p>	

研究成果の概要 (廣田收)

単著

- 2009 H21 9 『宇治拾遺物語』の中の昔話 新典社。(新書版、全 PP.158)
2009 H21 10 『講義 日本物語文学小史』金壽堂出版。(A5 版、全 PP.381)

論文

- 2009 H21 9 「説話、歴史物語の中の音楽、舞楽」堀淳一編『王朝文学と音楽』竹林舎、PP.396-417。

資料

- 2009 H21 4 『実相院古典籍調査報告資料集 第一〇輯』(全 PP.75) の編集、及び「翻刻『大雲寺旧記』の項目 (PP.58-59) の担当。

その他

- 2010 H22 3 「昔話の本文 text はどこに求めるか」『会報 伝え』日本口承文芸学会、第 46 号、PP.3。
2010 H22 3 「説話世界の縁起」堤邦彦・徳田和夫編『遊楽と信仰の文化学』森話社、PP.262-265。(刊行予定)

研究発表

- 2009 H21 9 『紫式部集』冒頭歌考—歌の場と表現形式を視点として— 古代文学研究会、於龍谷大学。
2009 H21 10 シンポジウム『紫式部集』研究の現在 司会とコーディネーター、中古文学会、於関西大学。

講演

- 2009 H21 11 『枕草子』記憶の光景 京都アスニー・ゴールデン・エイジ・アカデミー。於京都市生涯学習総合センター。